

主な内容

- 3 キラリ天草人
- 4 天草市合併20周年 未来へつなぐ
- 8 「こども誰でも通園制度」が始まります!
- 9 いきいき健康
- 10 暮らしの情報
- 23 図書館で知ろう! / 天草の旬いただきます
- 24 元気☆あまくさっこ / ○○な人み〜つけた!
- 25 ハッピーバースデー
- 26 宝島のわだい
- 28 市民のひろば
- 30 休日在宅病(医)院 / 献血日程  
水道修繕当番店
- 31 お出かけ情報 / 地域おこし協力隊
- 32 天草市議会議員一般選挙

天草市公式 SNS

広報紙 (やさしい日本語版)

外国人をはじめ、障がい者や高齢者、子どもにも分かりやすい日本語でまとめた概要版 ホームページ

▷ LINE  
▷ Facebook  
▷ Instagram  
▷ YouTube

SNS 一覧

問い合わせ先

本 庁 | 天草市役所 ☎23-1111  
〒863-8631 天草市東浜町8番1号

支 所 | 牛 深☎73-2111・有 明☎53-1111  
御所浦☎67-2111・倉 岳☎64-3111  
栖 本☎66-3111・新 和☎46-2111  
五 和☎32-1111・天 草☎42-1111  
河 浦☎76-1111

市長コラム

Mayor's Column



災害級の渇水に  
向き合う日々



1月13日に渇水対策本部を立ち上げ、市民の皆さまに節水の呼び掛けを続けています。防災行政無線で毎日発信を行っていますが、その思いは天に届かず、一向に雨の降る気配がありません。このコラムを読んでいただいている今、対策本部が解散できていたら良いのですが。

本日現在(2月5日執筆)、本渡地域のダム貯水率が40%を切りました。通常1日当たり1万トンの水が必要な同地域。このままの状況が続くと、2月末には強制的に給水制限を行わなければならない危機的状況です。減圧給水や給水時間の制限といった強制措置を行った場合、赤水が発生してしまい、それを戻すまでに大量の水を流し続け捨てる必要なくなるため、それでは意味がありません。

考え得るあらゆる対策を進めながら、雨が降ることを毎日神頼み。対策本部が閉じるまで、願掛けでネクタイの色を青にしています。雨が降ってくれるように願いを込めて。



これまでのコラムは市ホームページ内「市長室」に掲載しています▲

人のうごき		1月末現在	
1月中の異動		※( )内は前月比	
人 口	70,301人(150減)	出生	27人
男	33,335人(71減)	死亡	165人
女	36,966人(79減)	転入	103人
世帯数	35,683(57減)	転出	115人

今月の表紙

平成18年3月27日に2市8町が合併して誕生した天草市。多くの皆さんに支えられ、今年で二十歳の節目を迎えます。

第3次総合計画で定めた私たち(市民+行政)が目指す将来像「ともしつなぐ 幸せ実感 宝の島“天草”」を実現させ、10年、20年先も皆さんに愛され、誇れる天草市となりますように。

関連記事を4〜7ページに掲載。



崎津の魅力へ  
アクセスできる  
場所に

「地域のプレーヤーになりたい」。その思いを胸に15年勤めた市役所を退職し、崎津集落で空き家を活用した宿とカフェを営んでいるのが杉本智弥さんだ。

市役所では、環境や総務、観光の部署を経て、経済産業省への出向を経験。東京で過ごす中で、自分には田舎が合っていると改めて実感したという。天草に戻ってからは、市の企画部門を担当。そこで天草全体に目を向けていたとき、「天草は広く、都市部もあれば田舎もある。もっと地域に入り込んで活動したい」と思い立った。

コロナ禍の時、父の出身である崎津に空き家となっていた親戚の家があった。祖母と一緒に遊びに行ったこともあり、きれいにしていたのにもったいないと、親戚と話をして購入に至った。

最初はDIYをしたいなという気持ちだったが、いずれは崎津を「外貨を稼げる場所にした」と、父とともに家の改修を進め、宿泊施設がなかった集落で、令和3年に1棟貸



杉本 智弥さん  
(河浦町崎津)

しの宿を始めた。その取り組みを知った人から「ただで良いから使ってほしい」と別の空き家を譲り受け、翌年に2棟目。そのまた翌年には、別の親戚の空き家を購入し3棟に増えた。宿の名前は、住んでいた人の苗字を元に、外国人でも読みやすい響きとなるよう、それぞれ「崎津ハウスT.A.M.A・S.E.I・Z.A.N.N」と名付けた。利用者の約15%は、台湾やフランス、ドイツなどの海外からの観光客だという。

また、当時は集落内に飲食する場所がほとんどなかったため、空き家を活用した古民家C.A.F.E.「トリーヤノトナリ」をオープン。旬の魚のみりん干しなど地元の食材を使ったメニューもあり、地域住民の憩いの場の一つとなっているそうだ。

「崎津の魅力を高めることで、天草に来る人が増える。今後は魅力を発信するソフト面にも取り組みたい」と話す杉本さん。これからは崎津を訪れてもらえる仕組みづくりができるように、地域住民と共に取り組みを続けていく。

- 1 2棟目の崎津ハウスSEIの2階で。窓際に設けられた椅子に腰掛け、のんびり過ごすのが杉本さんのお勧め
- 2 カフェの中では、飲食以外にも雑貨を販売。写真は、崎津の名産・緋扇貝を使ったネックレス

